



大石田中の生徒がワナゲや歌などで高齢者と触れ合う

ビデオに合わせてゆっくりと体を動かす「いきいき百歳体操」が、1月23日(火)に虹のプラザ「中会議室」で行われ、町内の高齢者など30人が参加しました。また、この日は地域貢献や総合学習の一環で大石田中の3年生44人が参加して、高齢者と一緒に百歳体操をして体を動かしたり、自作のクイズやワナゲ、合唱などを通じて交流を行いました。クイズやワナゲ、歌詞カードは全て生徒がこの日のために自作したもので、高齢者に楽しく過ごしてもらいたいという思いが込められています。

参加した大石田中3年生の奥山琉花さんは、「いきいき百歳体操をやってみて、続けると元気に過ごせそうだと感じました。クイズやワナゲなどは、総合学習の時間にみんなで準備して作りました。ゲームを通じて高齢者の方と楽しく交流できて良かったです」と話していました。



機能訓練やリハビリなどに大石田かるたを活用

社会福祉法人敬天会「仁風荘デイサービスセンター」では、利用者が楽しみながら機能訓練やリハビリができる取り組みとして、大石田かるたを活用したレクリエーションを実施しています。これは、町から大石田かるたを寄贈されたことをきっかけに同センターの職員が企画した取り組みで、1月22日(月)～27日(土)の計6日間で延べ180人の利用者が参加しました。

このうち、1月26日(金)には同センターの利用者30人が参加し、大石田かるたを楽しみました。試合は、各テーブル6人構成で行われ、個人ごとに取った絵札の枚数を競い合いました。職員が読み札を読み上げると、参加者は真剣な表情で絵札を探して、「はい!」というかけ声と共に腕を突き出し、札を取っていました。中には24枚の絵札を取った参加者もあり、会場は賑わっていました。

参加した井上三郎さんは「大石田かるたをやってみて、大石田にはまだまだ知らないことがあると分かりました。勉強になりました」と話していました。

2023輝く県民活躍大賞に町内2団体が選ばれる

県内での社会貢献活動や地域活性化の取り組みを県が顕彰する2023年度の「輝く県民活躍大賞」の受賞団体9団体が決定し、大石田町から「大石田町高校生ボランティアサークル二十四孝PART II (稲垣美里会長)」と「大石田まつりを10倍楽しくする会 (青木安茂代表)」の2団体が選ばれました。

二十四孝PART IIは、高校生同士の交流と地域貢献を目的に昭和61年から活動しており、これまで、維新祭や街歩きガイドへの協力などさまざまな方面で活動を展開しています。

大石田まつりを10倍楽しくする会は、大石田まつりをもっと盛り上げたいという町民有志により平成12年から維新祭を主催しています。現在では町内外の20超の団体が参加し、迫力と熱気あふれる太鼓と踊りの競演を実施しています。

各団体が評価されたポイントは下記のとおりです。大変おめでとうございます。

団体名	評価のポイント
大石田町高校生ボランティアサークル二十四孝PART II	「自分たちだけではできなくても他団体と協力すればできる」をモットーに、他団体との連携を積極的に実施している活動であること。
大石田まつりを10倍楽しくする会	維新祭を企画・運営し、伝統芸能を活かしつつ新しさ・楽しさを加え、地域に活力と賑わいをもたらしている活動であること。

山大生が雪問題解決のアイデアを提案

町が抱える雪などの問題を解決しようと、山形大学の学生によるアイデア発表会が1月22日(月)に虹のプラザ「中会議室」で行われました。山形大学とは、平成27年に地方創生に関する連携覚書を締結し、雪の問題や若者の町への定着などをテーマに学生と地域住民との交流事業を行っており、毎年発表会を行っています。

今年は1、3年生の学生たち43人が8グループに分かれ、インターネットを使った事前調査や大石田

での現地調査などを経て、町の課題や解決策を考えました。発表会に参加した学生たちは、町の人口減少や雪問題などの諸課題の解決策として「サウナを使った観光客の誘致」や「雪発電を活用した町の活性化」、「空き家を利用したグランピング」など様々な解決策を提案していました。

また、午後には町内の老人クラブの会員など9人と学生たちの交流会が行われました。会員から昔と今の冬場の生活環境の違いや出稼ぎ経験について語られ、参加者は世代や地域を越えた交流を楽しんでいました。

